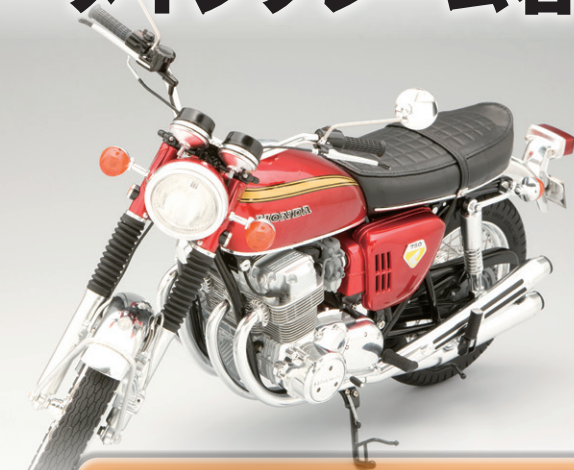


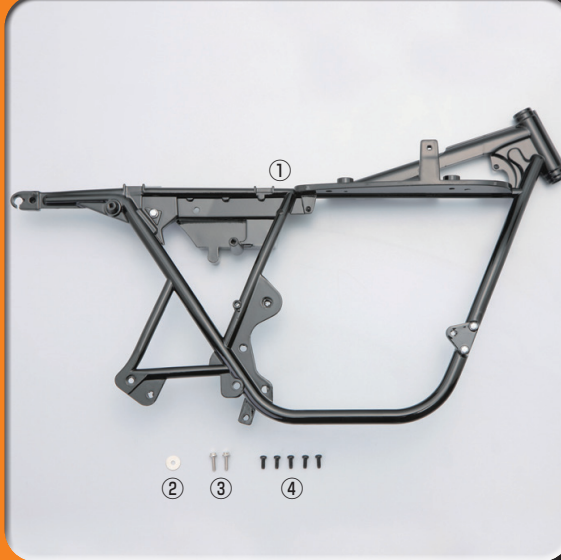
今号の作業

メインフレーム右をチェックする



今号では、メインフレーム右を提供する。実車のフレームは鋼管製のダブルクレードルだが、本モデルでは組み立てやすさを重視し、フレームを左右で分割したスタイルを採用している。各部の仕様は本モデル専用のアレンジが施されているので、今後の作業手順を把握するためにも、しっかりとチェックしよう。

今号のパーツ



- ①メインフレーム右×1
- ②ワッシャー×1
- ③ビス(Qタイプ)×2
- ④ビス(Eタイプ)×5
(※1本は予備)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

使用する道具

・特になし

用意するもの

・油性ペン

リヤダンパー取り付け部

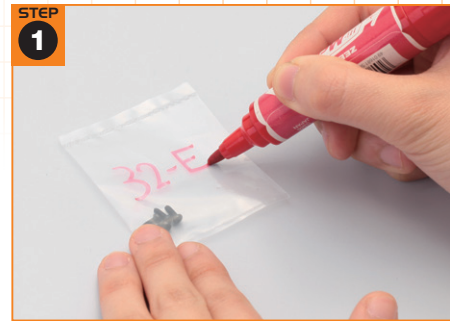
オイルタンク取り付け部

スプリングホルダー
取り付け部

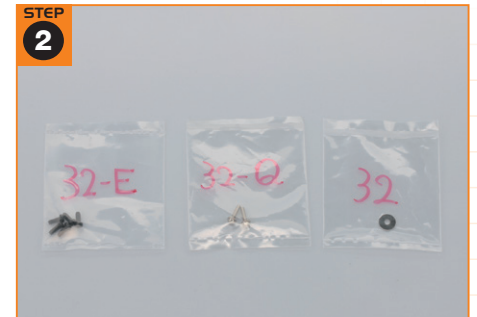
マフラー固定ピン
取り付け部

マフラー固定マウント

ブレーキペダル
取り付け部



今号では組み立て作業を行わない。そのため、提供したビス類はビニール袋を“開封しないまま保管”することをお勧めする。油性ペンを使い、号数とビスのタイプを記入しておくといいだろう。



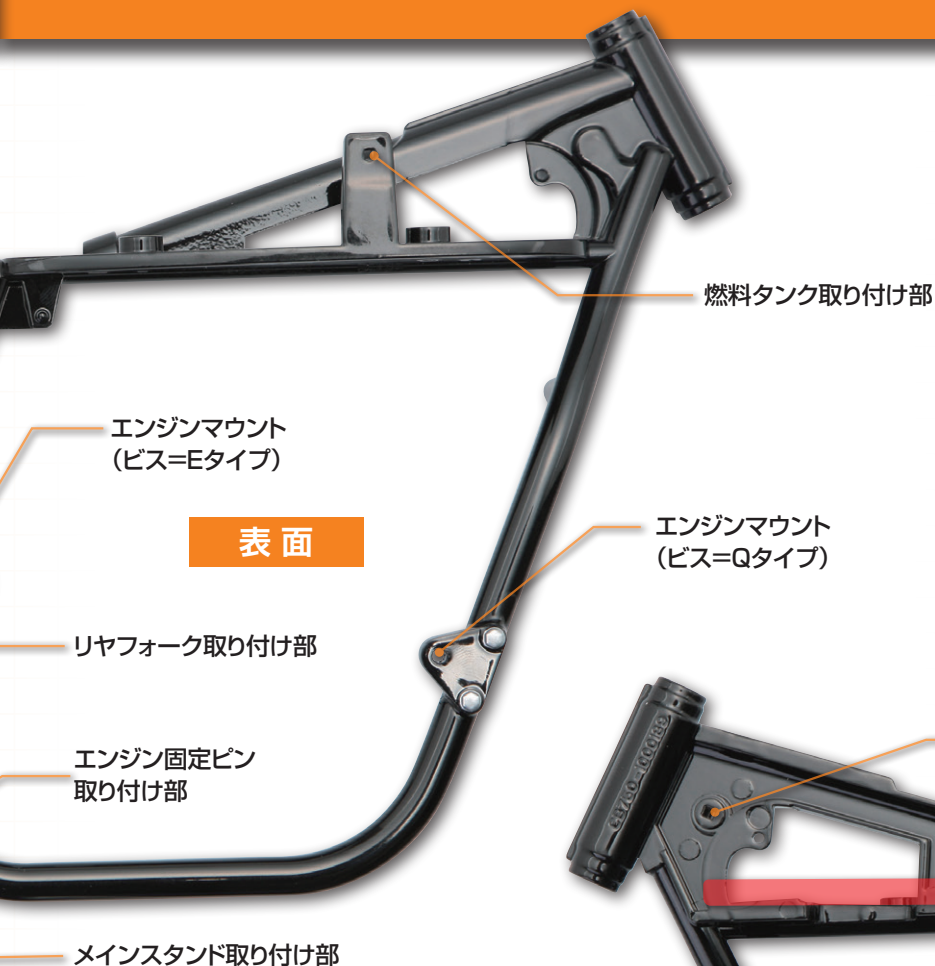
黒いビスは「Eタイプ」、銀色のビスは「Qタイプ」だ。ビスは“タイプ別”に仕分けしておくとな後の作業がしやすくなるので、間仕切りのある市販のパーツケースなどで保管するといい。

メインフレーム右の形状と、各部の役割

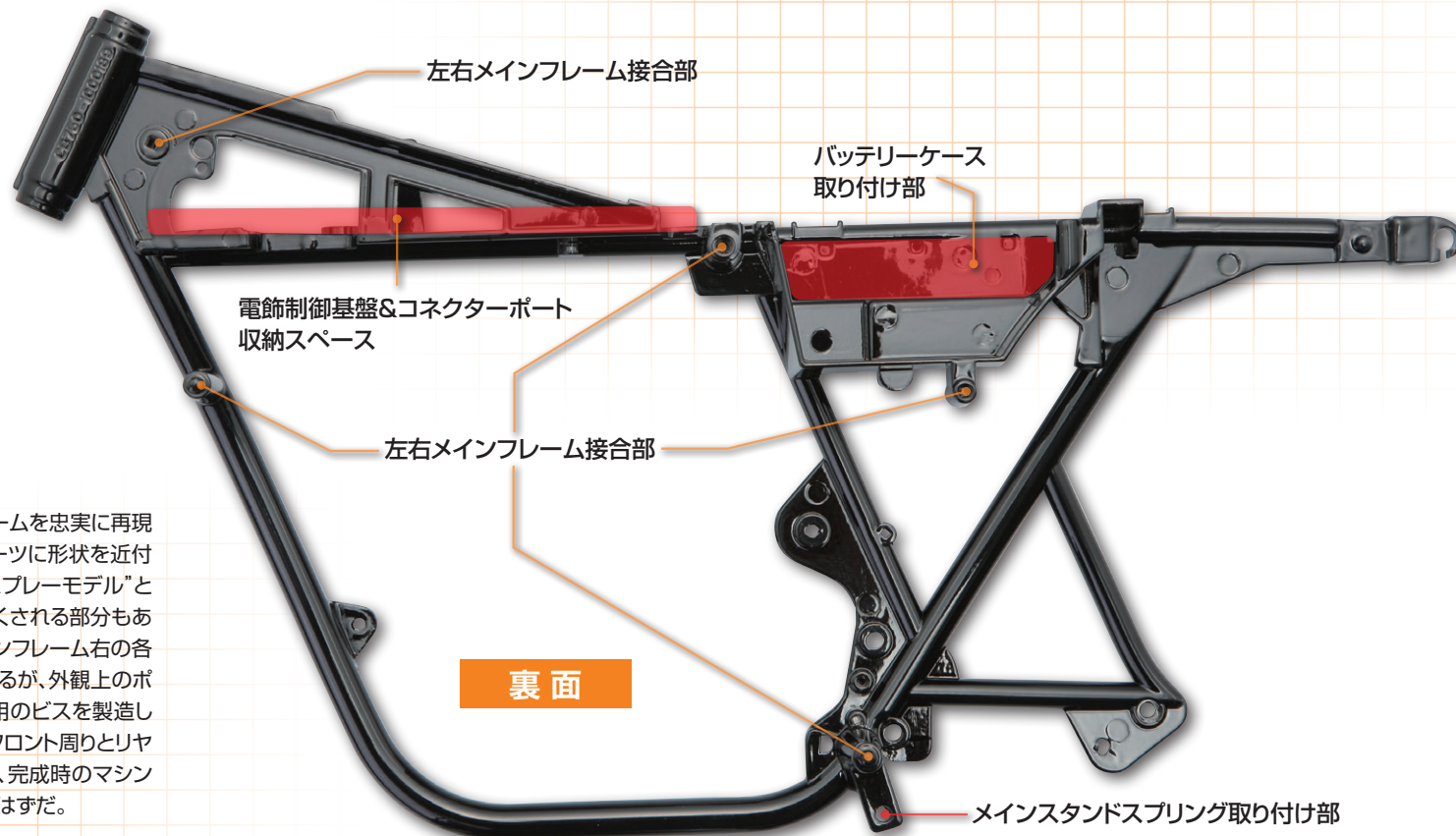
メインフレーム右には、各部に穴加工が施されている。これは、今後の作業でパーツを取り付けるために設けられたものだ。今のうちにしっかりとチェックしておき、後の作業に備えておこう。



メインフレーム右のフロント先端には、フレームナンバーが刻印されている。このナンバーは、HONDAから本モデルに対し、正式に貸与されたものだ。



表面



裏面

今号で提供したメインフレーム右だが、実車フレームを忠実に再現したものではない。もちろん、できる限り実車パーツに形状を近づけているが、“誰もが簡単に組み立てられるディスプレイモデル”として開発するためには、残念ながら変更を余儀なくされる部分もあることをご理解いただきたい。ここではまた、メインフレーム右の各部に設けられた“取り付け穴”の役割を紹介しているが、外観上のポイントになる六角形のボルトなどは、本モデル専用のビスを製造して再現している。なお、手元には既に組み立てたフロント周りやリア周りがあるはずなので、それらを一緒に並べれば、完成時のマシンの大きさや重量感を容易に想像することができるはずだ。